

特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構

第 15 期(2019 年度)事業報告書

(2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで)

1. 事業の概略

特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構(以下 J-DO)は、愛知県内の名古屋市を中心に、全国で国民の健康の保持増進、医薬品の安全性・有効性を立証する調査・研究を推進することにより、医薬品の適正使用を図り、人々が安心して安全な生活を営める社会を築くための手助けとならんことを目指している。

具体的には本法人の定款第5条(1)医薬品と安全に上手に付き合うための教育のための事業として、一般市民、小学生～高校生、薬学部学生 985 名、医師、薬剤師、医療従事者、教職員 1,213 名(計 2,198 名)に対して医薬品の適正使用に関わる指導者育成講座および公開講座を実施した。また、同条(3)医薬情報の収集提供として、出版物や、論文・学会発表等 13 件を行った。

こうした実績に基づき、広く国民の生命、健康の保持増進に大きく貢献した。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(ア)医薬品と安全に上手に付き合うための教育に関する事業についての教育セミナーを 13 回実施した。

(H18/8 回、H19/14 回、H20/19 回、H21/37 回、H22/22 回、H23/24 回、H24/29 回、H25/26 回、H26(第 9 期)/6 回、H26(第 10 期)/26 回、H27/29 回、H28/36 回、H29/22 回 H30/15 過去に累計 313 回 実績)

回	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数(人)	受益対象者の範囲および人数(名)
314	児童向けおくすり教室 「くすりと安全に安心して向きあう」 新田淳美、鍋島俊隆	2019 年 7 月 9 日	富山大学人間 発達科学部 附属小学校 (富山市)	13 名 (学生 12 名)	小学生 70 名
315	「くすりの正しい飲み方:くすりと安全に安心して付き合う」 「くすり教室:実験講座」 間宮隆吉、野田幸裕、鍋島俊隆 ※一宮市薬剤師会・名城大学薬学部との共同企画	2019 年 7 月 14 日	尾西生涯学習セ ンター (愛知県 一宮市)	34 名 (学生 9 名)	小学生 123 名
316	第 1 回ふれあい・いきいきサロン リーダー交流会 (高齢者向けおくすり教室のプレゼンテーション) 武藤久司	2019 年 8 月 8 日	一宮市社会福 祉協議会大和 事務所 (一宮市)	1 名	21 名
317	「くすりの正しい飲み方:くすりと安全に安心して付き合う」 「くすり教室:実験講座」 「薬物乱用・依存」 間宮隆吉、野田幸裕、鍋島俊隆 ※名城大学薬学部との共同企画	2019 年 9 月 19 日	八事小学校 (名古屋市)	15 名 (学生 12 名)	小学生 66 名
318	「くすりの正しい飲み方:くすりと安全に安心して付き合う～ 体験学習～」 和田光弘 ※山陽小野田薬剤師会、山口東京理科大学との共同 開催	2019 年 9 月 27 日	市立小野田 小学校 (山口県 山陽小野田市)	17 名 (学生 14 名)	小学生 42 名

回	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数 (人)	受益対象者の範囲および 人数(名)
319	「くすりの正しい飲み方:家族を対象としたくすりの正しい飲み方」 「くすり教室:実験講座」 野田幸裕 ※名城大学薬学部との共同企画	2019 年 10 月 27 日	パティオ池鯉鮒 知立市 文化会館 (愛知県 知立市)	10 名 (学生 9 名)	大人 23 名 子ども(中学生以下)10 名
320	「家族と学ぼう! 薬の正しい飲み方教室」 「薬剤師体験:散剤・軟膏剤の調製」 「おくすり手帳とは?」 野田幸裕 ※名城大学薬学部との共同企画	2019 年 11 月 2 日	名城大学 八事キャンパス (名古屋市)	18 名 (学生 17 名)	地域住民 約 60 名
321	高齢者おくすり教室 「シニアとおくすり」 武藤久司 日赤奉仕団神山支部主催	2019 年 11 月 13 日	一宮市 神山公民館 (一宮市)	1 名	36 名
322	薬を上手に使う ～小学生が学ぶ ジェネリック医薬品の そうなんだ!～ 鍋島俊隆, 和田光弘	2019 年 12 月 7 日	山口東京 理科大学 (山口県山陽 小野田市)	24 名 (学生 20 名)	小学生 38 名
323	高齢者おくすり教室 「シニアのためのおくすり教室」 武藤久司	2019 年 12 月 21 日	一宮市 宮西公民館 (一宮市)	1 名	60 名
324	シニアのお薬教室 講演(シニアの体と薬・お薬手帳とかかりつけ薬局・災害時のお薬手帳の位置付け・お薬の飲み方・シニアと残薬の対処方法)および実験(服薬時の水とぬるま湯の違い、など) 武藤久司	2020 年 1 月 12 日	朝日・赤見 公民館会議室 (一宮市)	1 名	30 名
325	「くすりの正しい飲み方:くすりと安全に安心して付き合う」 「くすり教室:実験講座」「薬物乱用・依存」 間宮隆吉、野田幸裕、鍋島俊隆 ※名城大学薬学部との共同企画	2020 年 1 月 27 日	栄小学校 (名古屋市)	10 名 (学生 7 名)	小学生 29 名 保護者 5 名
326	「くすりの正しい飲み方:くすりと安全に安心して付き合う～体験学習～」 和田光弘 ※山陽小野田薬剤師会、山口東京理科大学との共同開催	2020 年 2 月 12 日	市立高千帆 小学校 (山口県山陽 小野田市)	32 名 (学生 26 名)	小学生 97 名
327	「くすりの正しい知識と飲み方教室」 「くすりとの上手な付き合い方:くすりの正しい飲み方・使い方」 「くすり教室:実験講座」 間宮隆吉、野田幸裕 ※名城大学薬学部との共同企画	2020 年 2 月 19 日	天白区役所 (名古屋市)	25 名 (学生 23 名)	天白区民 126 名

従事者(53 名)、参加者数(985 名)

収入 0 円
 支出 283,438 円
 内訳:セミナー、出前授業(開催費、旅費、宿泊費、その他諸経費)

(イ)第5条の特定非営利活動に関わる事業として、法人会員のスギ薬局グループの杉浦記念財団が、ネット配信型の薬剤師研修プログラムを、実施している。

http://sugi-zaidan.jp/iseinar_new/index.html

一般社団法人日本薬剤師研修センターのインターネット研修教材として、名城大学薬学部地域医療薬局学講座でNPO J-DOが開催した薬剤師向けセミナーを使用している。

この事業について、費用は発生しなかった。

(ウ)薬剤師、医師、看護師、臨床検査技師などの医療人育成を目指した下記の講習会を企画・開催・共催・後援し、各団体と連携して事業を推進した。

講習会等の内容	日時・場所・参加者数(従事者数)
第65回日本薬学会東海支部大会 【講演 鍋島俊隆】「どのように研究を進めるのか？ 君の夢を叶えるために」 鍋島俊隆	2019年7月6日 名城大学八事キャンパス (名古屋市) 大学生46名、教職員・薬剤師42名 (従事者4名)
第11回地域連携薬剤管理指導研究会・講演会 ～認知症ケアに対する多職種協働支援～ 山田清文、鍋島俊隆(理事)	2019年4月21日 名古屋大学医学部基礎医学研究棟 (名古屋市) 薬剤師・看護師・医師 181名(21名)
第67回脳の医学・生物学会(共催) 鍋島俊隆、山田清文、平松正行(理事)	2019年8月31日 名古屋市立大学(名古屋市) 薬剤師・医師・研究者 65名(7名)
第3回日本精神薬学会総会・学術集会(後援)	2019年9月21-22日 神戸学院大学(神戸市) 薬剤師・医療従事者 730名(18名)
第12回地域連携薬剤管理指導研究会・講演会 ～薬局における小児科医療への関わりについて～ 山田清文、鍋島俊隆(理事)	2019年10月27日 名古屋大学医学部基礎医学研究棟 (名古屋市) 薬剤師・看護師・医師 84名(21名)
第68回脳の医学・生物学会(共催) 鍋島俊隆、山田清文、平松正行(理事)	2020年2月1日 名古屋市立大学(名古屋市) 薬剤師・医師・研究者 65名(7名)

従事者(78名)、参加者数(1,213名)

上記の開催について、費用は発生しなかった。

(エ)定款第5条に係る活動として、一般社団法人医薬品適正使用・乱用防止推進会議(CPP)と一般社団法人血液を大切にすることを活動を行った。また、平成24年度に文部科学省大学間連携共同教育推進事業として選定され、千葉大学薬学部が代表校として推進している「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」の打ち合わせを城西国際大学で行った。

1)一般社団法人医薬品適正使用・乱用防止推進会議(CPP)

会として相互連携した活動活性化のため、双方のWEBサイトでリンクし、情報を共有している。本年度は、共同セミナーなど次年度開催に向けたイベントの可能性について、検討をおこなった。またCPPが開催している「オピニオンリーダーとの会談」シリーズに、理事長 鍋島俊隆とCPP代表であり、当-DO理事である鈴木勉で会談を行った。その様子はWEB公開済みである。(3/31 公開であるが、前年度未報告事項であるため、2019年度にて報告)

<http://cppjp.or.jp/2020/03/31/talk13/>

2)一般社団法人 血液を大切にすることを会の会員として参加した。本年度は共同で行った事業は特になし。

3)実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」の推進に関する打ち合わせが城西国際大学で行われ、理事長の鍋島が参加した。

収入 0 円
支出 29,950 円

(オ)定款第5条(3)、医薬情報の収集提供についての活動として、薬剤師向け機関紙への寄稿、および論文・学会発表を以下 13 件行った。 * 著者名アンダーラインは 会員、理事 (前年までの計 185 件)

毎年執筆を続けていた医薬品情報誌(やくほう紙)は、本年度刊行なし。

No	内 容 詳 細
1	原著論文 <u>Mouri A</u> , Lee HJ, <u>Mamiya T</u> , Aoyama Y, Matsumoto Y, Kubota H, Huang WJ, Chiou LC, <u>Nabeshima T</u> . : Hispidulin attenuates the social withdrawal in isolated disrupted-in-schizophrenia-1 mutant and chronic phencyclidine-treated mice. <i>Br J Pharmacol</i> . 2020 Mar 4 (in press)
2	原著論文 Shimizu C, Wakita Y, Kihara M, Kobayashi N, Tsuchiya Y, <u>Nabeshima T</u> . : Association of lifelong intake of barley diet with healthy aging: Changes in physical and cognitive functions and intestinal microbiome in senescence-accelerated mouse-Prone 8 (SAMP8). <i>Nutrients</i> . 2019 Aug 1;11(8).
3	原著論文 Sakurai M, Yamamoto Y, Kanayama N, Hasegawa M, <u>Mouri A</u> , Takemura M, Matsunami H, Miyauchi T, Tokura T, Kimura H, Ito M, Umemura E, Boku AS, Nagashima W, Tonoike T, Kurita K, Ozaki N, <u>Nabeshima T</u> , <u>Saito K</u> . : Serum metabolic profiles of the tryptophan-kynurenine pathway in the high risk subjects of major depressive disorder. <i>Sci Rep</i> . 2020 Feb 6;10(1):1961.
4	原著論文 Yoshida Y, Fujigaki H, Kato K, Yamazaki K, Fujigaki S, Kunisawa K, Yamamoto Y, <u>Mouri A</u> , Oda A, <u>Nabeshima T</u> , <u>Saito K</u> . : Selective and competitive inhibition of kynurenine aminotransferase 2 by glycyrrhizic acid and its analogues. <i>Sci Rep</i> . 15;9(1):10243. doi: 10.1038/s41598-019-46666-y.
5	原著論文 Yamasuge W, Yamamoto Y, Fujigaki H, Hoshi M, Nakamoto K, Kunisawa K, <u>Mouri A</u> , <u>Nabeshima T</u> , <u>Saito K</u> . : Indoleamine 2,3-dioxygenase 2 depletion suppresses tumor growth in a mouse model of Lewis lung carcinoma. <i>Cancer Sci</i> . 2019 Oct;110(10):3061-3067.
6	原著論文 Lu Q, <u>Mouri A</u> , Yang Y, Kunisawa K, Teshigawara T, Hirakawa M, Mori Y, Yamamoto Y, Libo Z, <u>Nabeshima T</u> , <u>Saito K</u> . : Chronic unpredictable mild stress-induced behavioral changes are coupled with dopaminergic hyperfunction and serotonergic hypofunction in mouse models of depression. <i>Behav Brain Res</i> . 2019 Oct 17;372:112053.
7	学会発表 Poster Presentation Chikako Shimizu, Yoshihisa Wakita, Shuichi, Segawa Naoyuki Kobayashi, Youichi Tsuchiya, <u>Toshitaka Nabeshima</u> :マウスの体重と行動に与える飼育環境とケージの影響(Effects of the breeding environment and cage on body weight and behaviors in mice)(英語) 第 66 回日本実験動物学会総会,福岡 2019 年 5 月 15-17 日
8	学会発表 Poster Presentation 國澤 和生, 毛利 彰宏, 小菅 愛加, 飯田 翼, Wulaer Bolati, 山本 康子, 齋藤 邦明, 鍋島 俊隆 IDO1 は社会的敗北ストレス下におけるストレス脆弱性を制御する(IDO1 regulates vulnerability to social defeat stress Neuro2019, 朱鷺メッセ(新潟市) 2019 年 7 月 25-28 日
9	学会発表 Poster Presentation Mikio Yoshida, Sho Hasegawa, Mizuki Uchida, Yoji Uchida, <u>Akihiro Mouri</u> , Akira Yoshimi, Masayoshi Mishina, Norio Ozaki, <u>Toshitaka Nabeshima</u> , <u>Yukihiro Noda</u> : Involvement of glutamate receptors in the impairment of social behaviors induced by social defeat stress exposure as juveniles 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Fukuoka, Oct. 11-13, 2019
10	学会発表 Poster Presentation Moe Nijima, <u>Akihiro Mouri</u> , Tomoaki Teshigawara, Kazuo Kunisawa, Hisayoshi Kubota, Mami Hirakawa, Yuko Mori, Masato Hoshi, Yasuko Yamamoto, <u>Toshitaka Nabeshima</u> , <u>Kuniaki Saito</u> : The deficit of quinolinic acid phosphoribosyltransferase induces hypolocomotion and cognitive impairment through impairment of dopaminergic neuronal function. 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Fukuoka, Oct. 11-13, 2019

11	学会発表 Poster Presentation Kazuo Kunisawa, <u>Akihiro Mouri</u> , Akika Kosuge, Tsubasa Iida, Yasuko Yamamoto, <u>Kuniaki Saito</u> , <u>Toshitaka Nabeshima</u> : Repeated social defeat induces social interaction deficits associated with the alteration of kynurenine pathway activity in the prefrontal cortex. 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Fukuoka, Oct. 11-13, 2019
12	学会発表 Poster Presentation Koizumi Hikaru, Aichi Kaoruko, <u>Mouri Akihiro</u> , <u>Nabeshima Toshitaka</u> , Soya Hideaki; Chronic mild exercise at juvenile stage attenuates abnormal behavior in perinatal phencyclidine-treatment induced schizophrenia mice model. 6th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Fukuoka, Oct. 11-13, 2019
13	雑文 和田光弘 山口東京理科大学薬学部への教育紹介 おくすり教室を通じた学生指導・社会活動への参加 旺文社 蛍雪時代, キャンパス NEWS 2020 年 1 月号, P164 2019.12.15.発刊

これらの活動について、費用は発生しなかった。

(カ)定款第5条(3)医薬情報の収集提供についての活動として、「危険ドラッグ検索のための平成29年文献領域区分作業」において、文献について調査および分析と翻訳を行った。

危険ドラッグ検索のための2019年文献領域区分作業」

協力者：毛利彰宏、鍋島俊隆、高尾精一(理事)

この事業における会計活動は次の通りである。

収入 376,650 円
支出 338,985 円
収支 37,665 円

(2) その他の事業に係る事業

実施しなかった。

(3) 会議の開催に関する事項

1. 理事会の開催

2019年度は以下の2回、理事会を開催した。

1)2019年第1回理事会

(ア)開催日時及び場所

2019年6月15日(土曜日) 10時00分～11時00分

於: 於:名古屋コンベンションホール小会議室 205(名古屋市中村区平池町)

(イ)議題

①第14期医薬品適正使用推進機構 通常総会提出議案について

②次期理事長の選出と承認

互選により、次期二年間の理事長に鍋島俊隆、副理事長に野田幸裕、山田清文が選出され、就任した。

2)2019年度臨時理事会(メール審議による開催)

(ア)開催日時

2019年6月21日配信 6月25日までに全員より回答あり

(イ)議題

個人正会員・個人賛助会員の年会費変更について

(経緯)

6月15日に開催した第14期総会において、個人会費の変更の提案があったため、理事会にて審議し、可決することとなった。

個人正会員、個人賛助会員の年会費

正会員 10,000 円 → 5,000 円

賛助会員 5,000 円 → 2,000 円

(方法)

6月21日に前理事宛てに、メールにて審議依頼を配信し、可決を依頼した。

(結果)

6月25日までに、全理事より変更を承認する旨、メール返信があったため、当議案を採用し、以降支払われる年会費から、新しい金額で納付していただくことになった。

2. 定時総会の開催

第14期特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構 通常総会

(ア)開催日時及び場所

2019年6月15日(土曜日) 11時00分～14時30分

於:名古屋コンベンションホール小会議室 205(名古屋市中村区平池町)

(イ)議題

- ① 特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構の第14期(2018年4月から2019年3月)事業活動について
- ② 第14期事業収支報告について
- ③ 第14期監査報告について (神谷 誠、林 伸一監事による監査結果の報告)
- ④ 定款の変更についての説明とそれに伴う事業期間の変更
- ⑤ その他の活動について

以上